

これから入会を考えている女性医師の皆さんへ

— 鼻副鼻腔手術に携わる立場から見た日本頭頸部外科学会の魅力 —



私は、鼻副鼻腔疾患や嗅覚障害を専門とし、鼻科手術に多く携わっています。その立場から見ても、頭頸部外科学会はとても魅力のある学会です。

医療が進歩した今、薬物療法や低侵襲治療の選択肢は広がっていますが、それでもなお、形態異常を是正し、病態そのものを改善するための外科手術が必要な場面は少なくありません。手術は今も、医療の根幹の一つであり続けています。

頭頸部外科というと、がん手術のイメージが強いかもしれませんが、この学会で学べるのは切除の技術だけではありません。根治性を追求しながら、機能を守り、整容性にも配慮し、患者さんのその後の人生まで見据えて治療する。そうした外科医としての姿勢に触れられることが、この学会の大きな魅力だと感じています。

また、自分とは異なる領域の手術から学べることも非常に多いと思います。手術の進め方のプロセス、レイヤーの捉え方、術野の展開の考え方などは、領域が違っていても大変参考になります。優れた外科医のスタンスには共通するものがあり、それに触れられること自体が大きな学びです。

私の専門領域である鼻副鼻腔疾患においても、より嗅覚機能を改善するために、より温存するために、どうすればよいか、さらに深みを追求し、新しい挑戦を常に考えています。そうした中で、このような学会で他の領域のことも学ぶことができることが、自分の医師としての深みをつくり、幅を広げてくれます。そして、その積み重ねが医療の前進にもつながっていると実感することができる場がある、これも本学会の大きな強みだと思います。

これから入会を考えている女性医師の皆さんにも、ぜひこの学会を通して自分の専門性をさらに深め、耳鼻咽喉科医としての可能性を広げ、その先の医療の前進に繋げていっていただきたいと思います。

東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科 森 恵莉